短大生の方言
新潟県出身学生のアンケート調査結果より（2）

福嶋秩子

1　はじめに

「ことばとくらし」第13号において、県立新潟女子短期大学で行った方言アンケート調査のうち、1999年度調査の新潟県出身学生の方言データに基づく言語地図について報告した[1]。本稿においては、1994年度から2002年度まで７回にわたって行った調査データのうち、言語項目の総合的分析結果について報告する(1997および2001年には調査を行っていない)。

調査方法と調査項目の詳細については前稿を参照していただきたいが、要点だけここに述べる。このアンケートは「新潟県の方言」という講義の最初に、受講者に自らのことばや方言について内省してもらうために行ったものである。調査項目は大きく分けて言語意識項目と言語項目からなる。言語項目は、講義の中で新潟県の方言状況について説明するときに触れる項目である。「東西方言の対立」・「方言と標準語」・「気づかれにくい方言」・「新方言」などの観点から選んだもので、語法・語彙・アクセント項目などが含まれる。受講者の大半は18-20歳の女子短大生であるが、若干名の一般人受講者がいる。今回の分析では、新潟県内で育ったと答えた受講者（学生および一般）のデータのみを扱う。

調査総数は 770にのぼるが、各年度ごとのデータ数には隔たりがある（**表１**）。これは受講生の変動による。

表1 「新潟県の方言」調査データ

年度	データ総数	うち新潟県出身学生数
1994	39	22
1995	95	84
1996	153	124
1998	160	140
1999	167	140
2000	85	64
2002	71	57
計	770	631

このうち、新潟県出身学生 631名のデータについて、まず年度別に項目ごとの言語地図を描いた。この調査期間内の変化はみられなかった。さらにそれを重ね合わせて全体地図を描いた。また、新潟県出身の一般人の受講者50名の年齢は30歳代から70歳代までにわたっている。こちらは、比較のため、高年層（1949年以前の生まれ、女性24名・男性６名）と中年層（1949年以後の生まれ、女性20名）の２世代に分けて言語地図を描いた。若年層（学生）の言語地図の解釈にあたって、こちらの言語地図も適宜参照する。

なお、県外出身の学生61名分と県外出身の一般受講者28名分のデータは、出身地が広範囲にわたるため、今回の分析から除いた。

1 福嶋秩子(2001)「短大生の方言　新潟県出身学生のアンケート調査結果より(1)」『ことばとくらし』13号　横pp.11-19

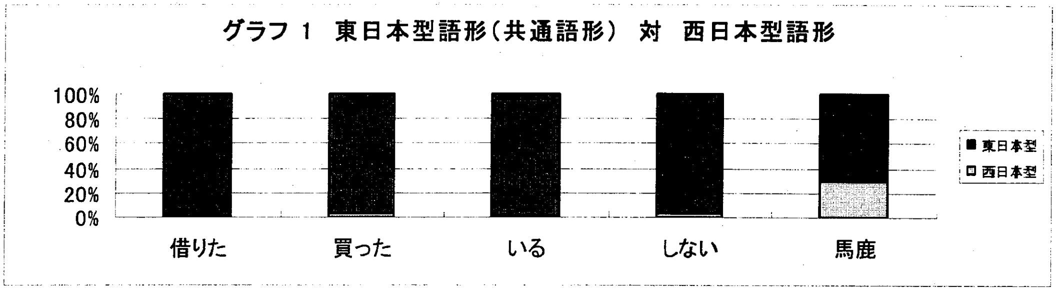
2　分析の方法

データは、SEAL[2]により地図化を行った。EXCELを用いてデータを電子化し、特別に作成した変換プログラムを用いてSEAL用のデータを作成した。地図化の際にデータをプロットする地点は、回答者が育った市町村の役場所在地とした。そのため、新潟市など出身者の多い地点では、複数の、時には何十人分のデータが重ねうちされることになる。また、各年度の学生データに基づいて書いた言語地図はそれぞれ地点が異なるが、SEALの年度別のデータをひとつのグループの地図として作成する機能を付加して重ね合わせ、学生データの全体地図を作成した。以上の言語地図はこの小論の最後にまとめて掲げてある。

言語地図により語形の地理的分布状況はわかるが、現実の使用状況（データ全体における各語形の割合）を知るためにEXCELによるグラフも併用することとした。

3　共通語化

まず、**グラフ１**を参照してほしい。東西方言の対立する地域にある新潟県の方言状況を確認するために調べた項目における、短大生の回答である。各項目の東日本型語形と西日本型語形は以下の通りである（「借りた」カリタ／カッタ、「買った」カッタ／コータ、「いる」イル／オル、「しない」シナイ／セン、「馬鹿」バカ／アホ）。語彙項目の「馬鹿」をのぞき、圧倒的に東日本型語形（共通語形）が使われていることがわかる。



地図１－５は、上の５項目の言語地図である。西日本型語形は使用頻度がかなり低いが、一定の分布をもっている。「借りた」の西日本型語形であるカッタの分布が一番狭い。「買った」のコータは越後の平野部に分布する。「いる」と「しない」の西日本型語形は佐渡と糸魚川・上越を中心に分布する。『新潟県言語地図』の関連地図と比較すると、西日本型語形の分布地域が狭まり、地点密度が低くなっている。東日本型語形が使われていたところへ西日本型語形が伝播したが、共通語化が進み、西日本型語形は失われつつあるのである。

「馬鹿」の分布は語法の項目とは異なる分布を見せる。西日本型語形のアホは、テレビなどを通じてなおも分布を広げている語形なのであろう。

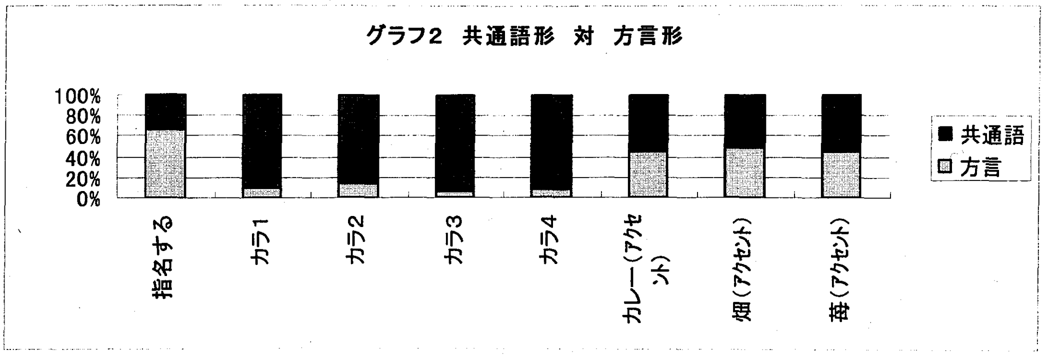
4　気づかれにくい方言

グラフ２は、インフォーマントが方言形だと気づきにくい語形を含む項目である。「指名する」の新潟県内での方言形カケルは60％を越える使用率である。共通語と同形であるが、意

---

[2] 筆者らが作成した言語地図作製プログラム。http://www.nicol.ac.jp/~fukusima/でSEAL 6.1Jを公開中である。今回の地図化にあたっては、未公開のSEAL 6.3Jを使用した。

味が異なるため、方言と気づかれにくい。「誰々に何々してもらう」という表現で，ニのかわりにカラを使う割合は20%をきっている。これも、助詞の選択の違いだけのため、方言形と気づかれにくい。ニを使うと直接的な感じがして、乱暴な言い方とされ、丁寧な言い方としてはカラが用いられる。使用率は高くないが、地域共通語の敬語的な側面をもつので、若年層の学生たちが就職・結婚後に習得していく可能性があるだろう。また、アクセントも方言的であると気づかれにくい。ここでは、頭高のHLL型が方言的アクセントである。「カレーライス」の略語であるカレーは比較的新しいことばであるが、頭高の方言的アクセントをもつ。



地図６―13は以上の項目の地理的分布を示す。「指名する」のカケルは県内全域に分布する。「誰々に何々してもらう」は、文脈によって多少分布が異なるが、越後の平野部を中心に分布する。アクセント項目の頭高アクセントも同様であるが、より分布が広い。

また、新潟方言はイとエの混同が有名であるが、若年層においても混同するという答えが散発的に分布している（**地図14**)。「晴れだから」で、d>rの変化の起こる地域は予想外に狭く、新潟市から長岡市にかけての地域に集中している（**地図15**)。

5　新しい方言

「晴れだから」の理由をあらわす部分の語形は、越後に広く分布するスケ系（京阪語のサカイから変化した形）、糸魚川・青海のソイ、佐渡や上越のシ（西日本系）、そして共通語形のカラがある（**地図16**）。スケには変種としてッケとッカエがある。スケが残存的に分布するので、スケ＞ッケであることは明らかである。ッケの分布域は広く、新しい方言形ッケへの変化がかなり進行したことをうかがわせる。新潟市の南方に位置するガラやガンネもカラ系である。

地図17-18は「明明後日」と「明明明後日」の地図である。この小語彙体系と考えられる２項目において、共通語の体系の影響を受けて新しい動きが生まれている。

「明明後日」において全域に分布するのは、共通語のシアサッテである。一方、方言形であるヤノアサッテが越後の中央部以北に、ヤナアサッテ、ヤナサッテはその周辺に位置する。共通語との混淆形と見られるシノアサッテ、シアアサッテ、シミョウゴニチや、方言形の変種と見られるヤマアサッテやサノアサッテもある。

「明明明後日」において佐渡や上越を除くほぼ全域に分布するのは、共通語形のヤノアサッテである。シアサッテはほとんど使われていない。方言形として、ヤノササッテ、ヤナサッテ、ヤネアサッテ、ヤヌアサッテがある。シシアサッテ、ヤノヤノアサッテは、「シアサ

ッテあるいはヤノアサッテの次の日」として新しく作られた形であろう。マタアサッテ、ヨクアサッテも同じような考え方で作られていよう。なお、学生の「明明明後日」の言語分布は、『新潟県言語地図』の「明明後日」（高年層の方言分布と考えてよいだろう）にそっくりである。

図19-20は高年層の言語地図、図21-22は中年層の言語地図である。ローカルな方言形が少ないのは、ここでいう高年層・中年層のインフォーマントの多くが生育地を離れて、今現在新潟市周辺に住んでいるためと考えられる。しかし、4枚の地図を比較すると、興味深いことがわかる。高年層のほとんどが「明明後日／明明後日」はシアサッテ／NR（無答）、ヤノアサッテ／NRであるのに対し、中年層はシアサッテ／NR、ヤノアサッテ以外のYan-で始まる語形（Yan-系）／NRに加えて、シアサッテ／ヤノアサッテがある。このことは図21-22の総合図にはっきり示されている。ヤノアサッテ／NR、Yan-系／NRが新潟県の古い体系であると考えられる（これは『日本言語地図』でも確認できる）。

図23は学生の総合図である。ヤノアサッテ／NR、Yan-系／NR が越後の中央部を中心に分布し、周辺にも残存的に分布する。共通語の体系であるシアサッテ／ヤノアサッテ、シアサッテ／NR が全域に分布するが、混淆的な体系であるシアサッテ／Yan-系が接触地帯に分布している。このことから、新潟県に起こった変化は以下のようにまとめられる。共通語の体系の影響を受けて、方言形が意味のずれを起こしたのである。

新潟県

明明後日	ヤノアサッテ、Yan系	→→	シアサッテ
明明明後日	NR		ヤノアサッテ、Yan系
		↑	
	共通語	シアサッテ	
		ヤノアサッテ	

6　まとめ

アンケートをとった学生はほとんど短大の１年生である。高校まで同じ土地で過ごした者が多く、生育地の方言をよく表していることがわかった。調査結果は以下の３点からまとめた。１）共通語化　２）気づかれにくい方言　３）新しい方言　である。

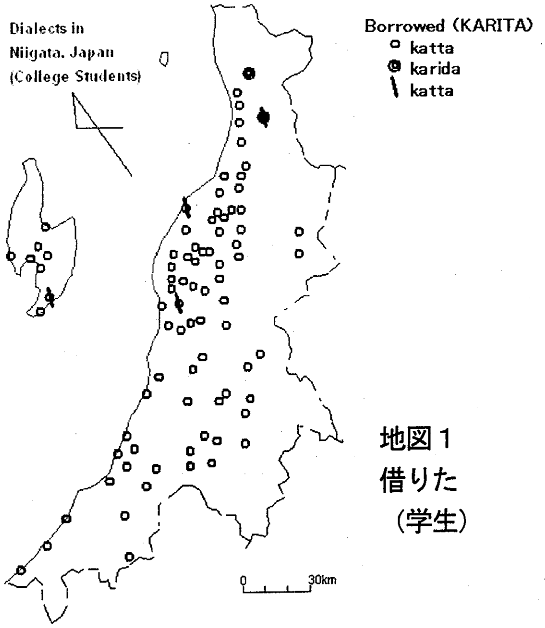
この論考は、2002年8月6日フィンランドのヨエンスーで行われたMethods XI（第11回方言学の方法国際会議）での英語による口頭発表をもとに加筆修正し、日本語で示したものである。また、本研究は文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(２)（研究代表者　福嶋秩子　課題番号13610673）によって行われた。ここに記して謝意を表する。

参考文献

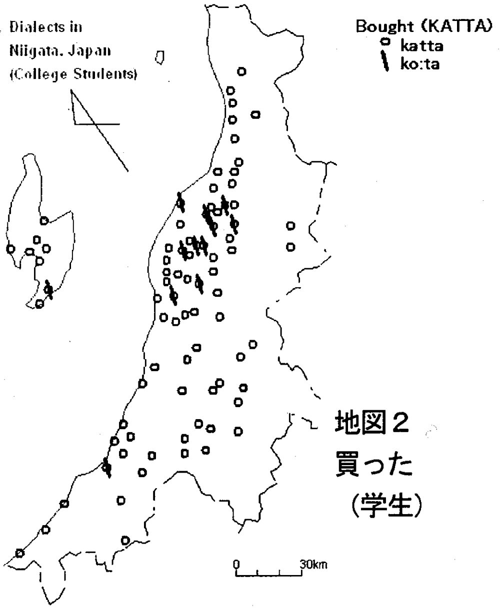
大橋勝男編著 1998 『新潟県言語地図』高志書院

国立国語研究所 1974 『日本言語地図』第６集

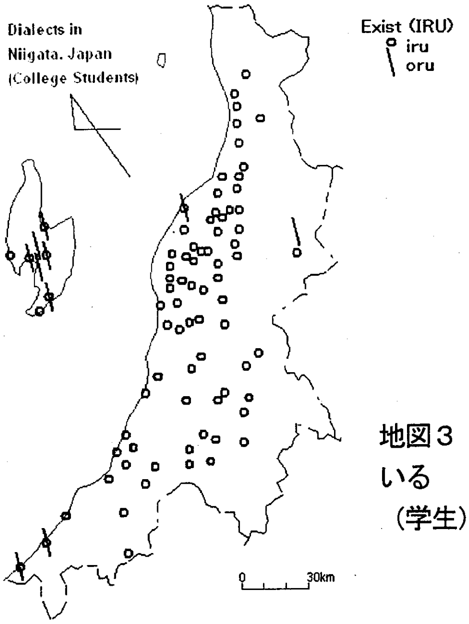
Chitsuko Fukushima and Yusuke Fukushima　2002　*SEAL Users' Manual, Sixth Edition (English Version): SEAL Version 6.0E for English Version Windows 98/Me/2000.*



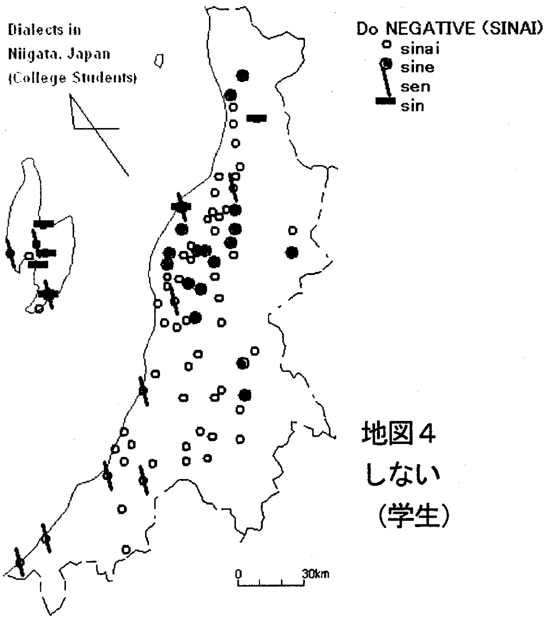
地図１
借りた
（学生）



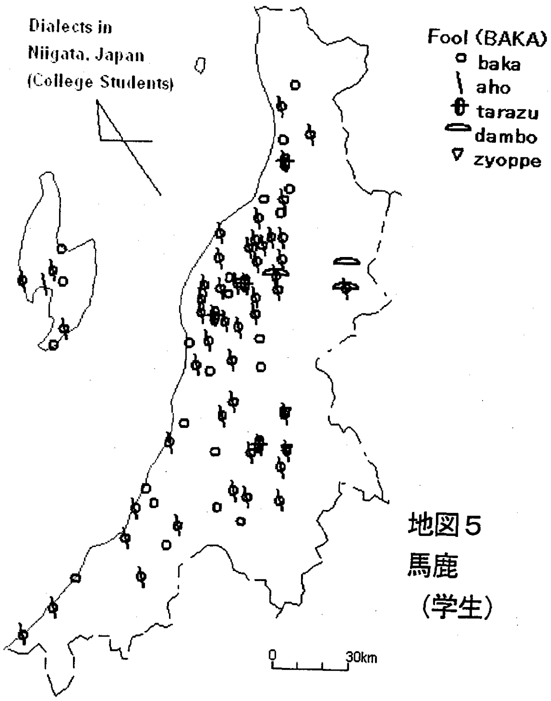
地図２
買った
（学生）



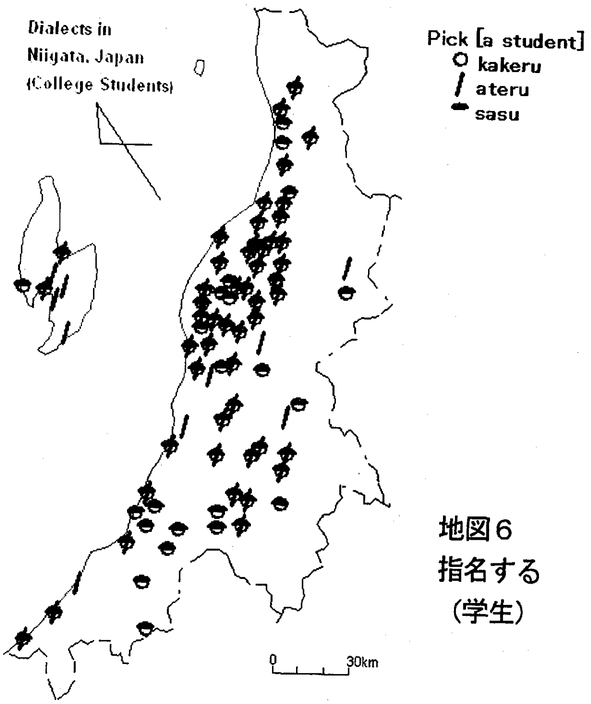
地図３
いる
（学生）



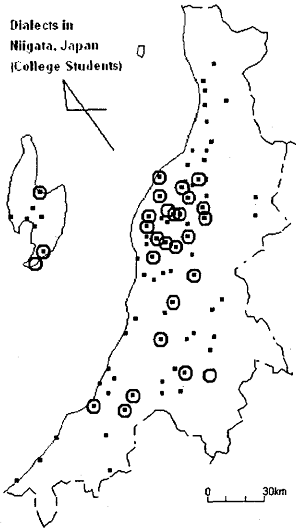
地図４
しない
（学生）



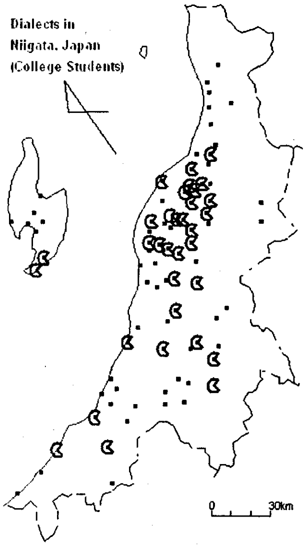
地図５
馬鹿
（学生）



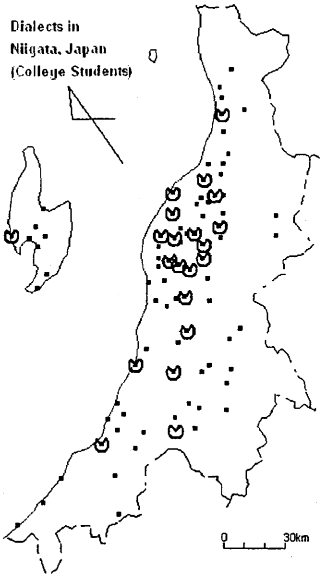
地図６
指名する
（学生）



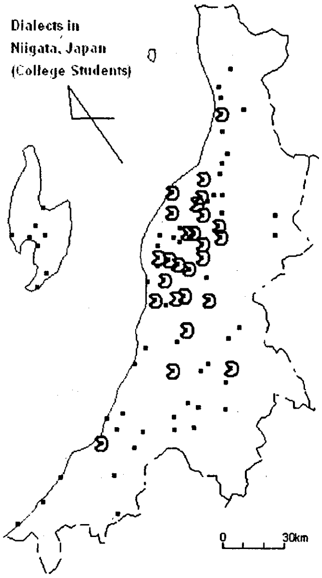
地図７
先生に来てもらった（学生）



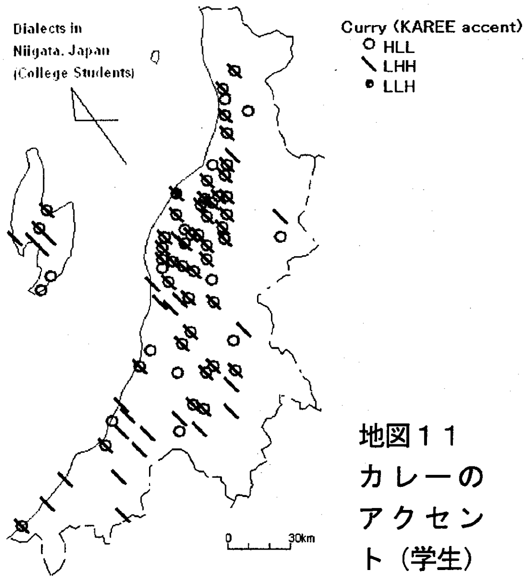
地図８
先生の息子さんに来てもらった（学生）



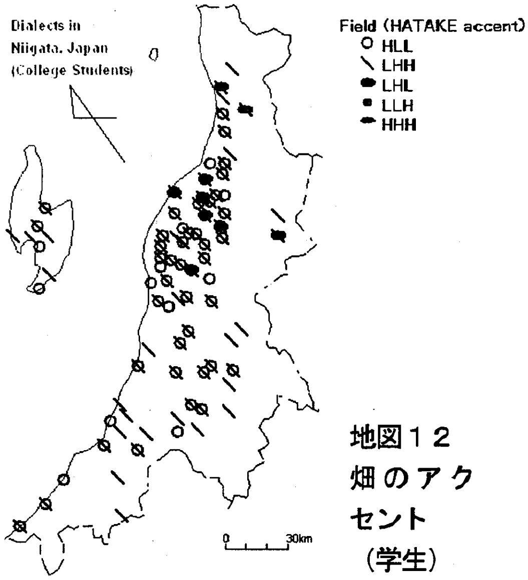
地図９
息子に来てもらった（学生）



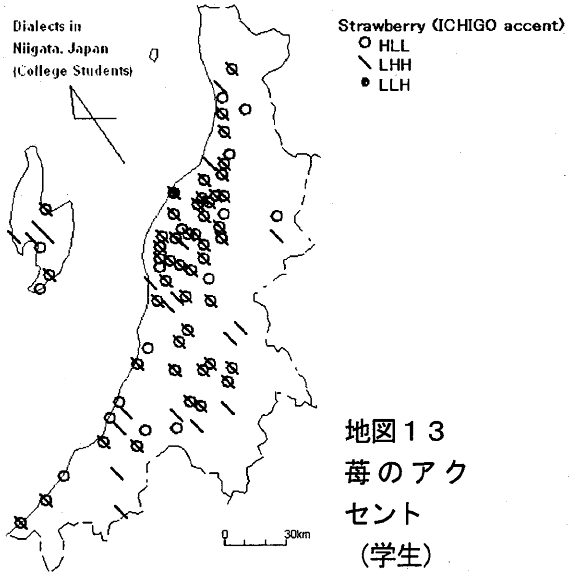
地図１０
母に来てもらった（学生）



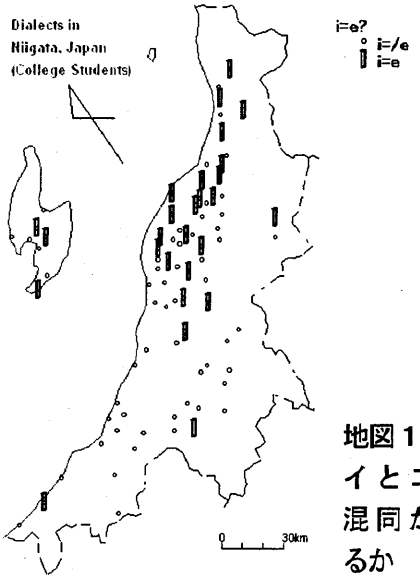
地図１１
カレーの
アクセント（学生）



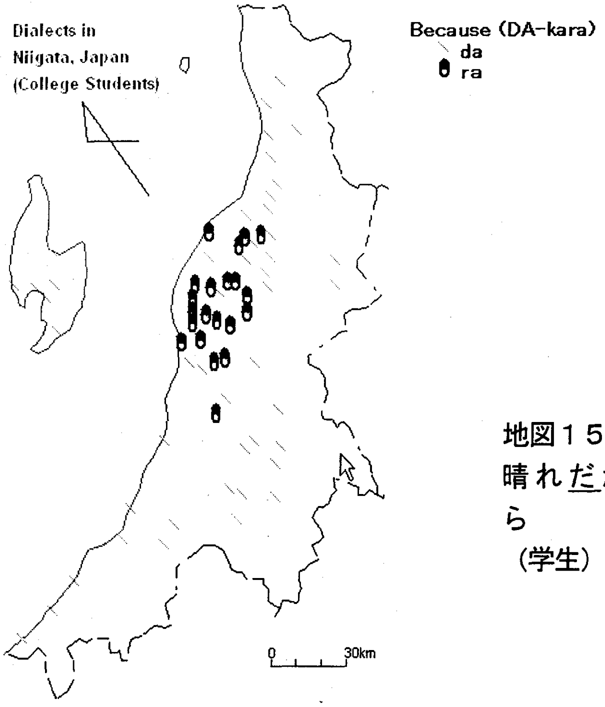
地図１２
畑のアク
セント
（学生）



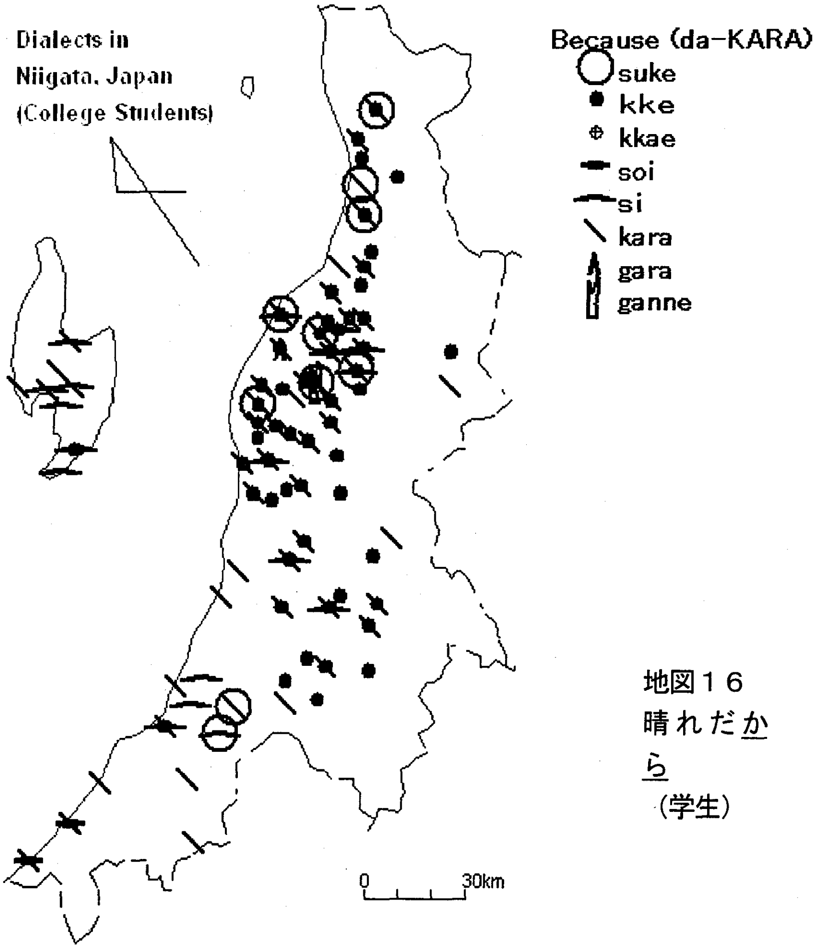
地図１３
苺のアク
セント
（学生）



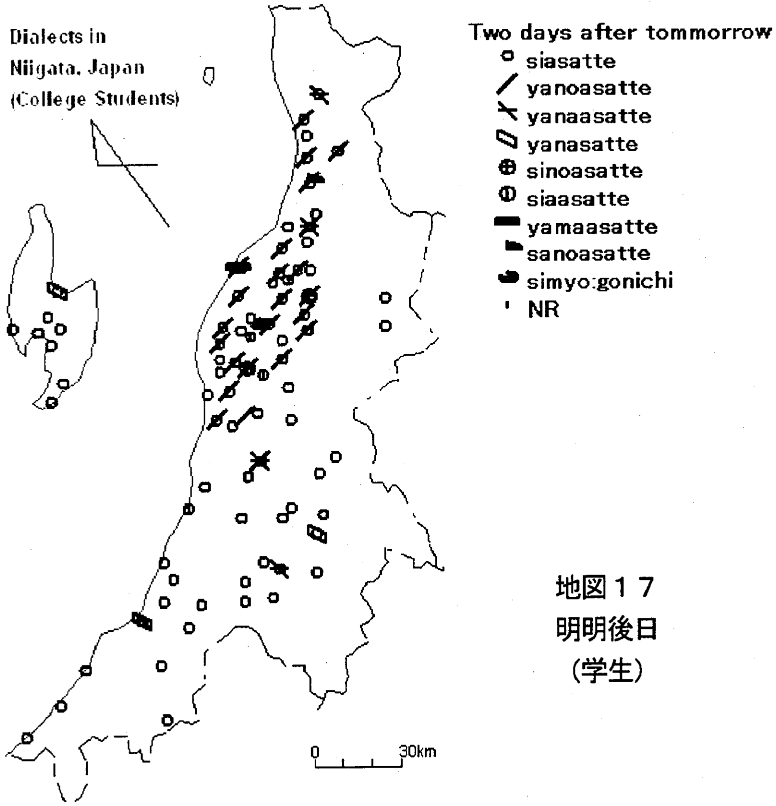
地図１４
イとエの
混同があ
るか
（学生）



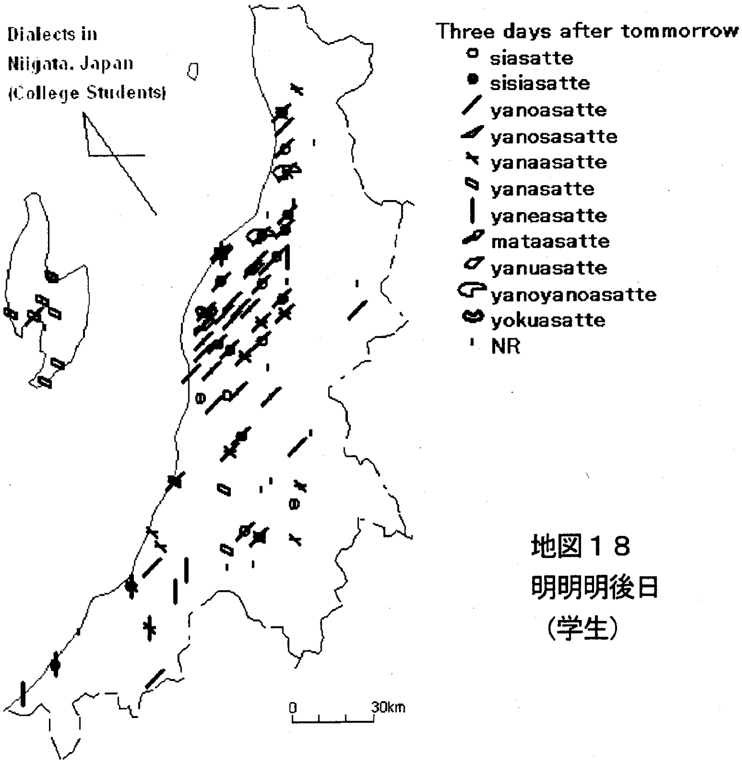
地図１５
晴れだから
（学生）



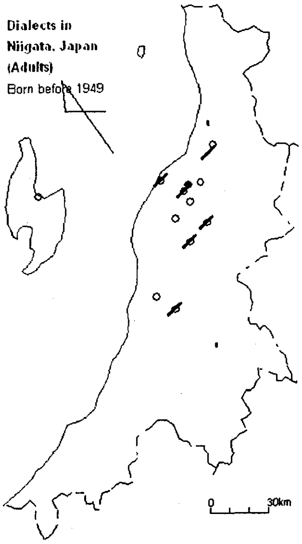
地図１６
晴れだから
（学生）



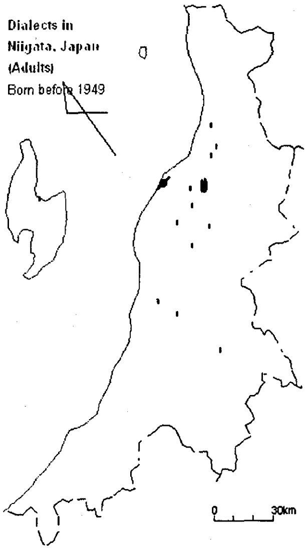
地図１７
明明後日
（学生）



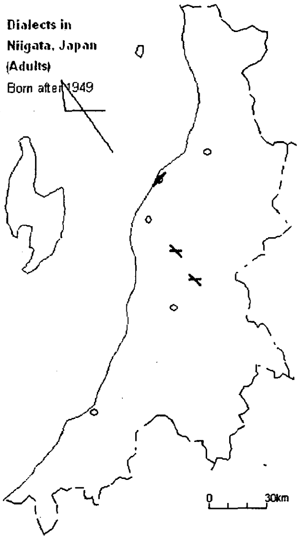
地図１８
明明明後日
（学生）



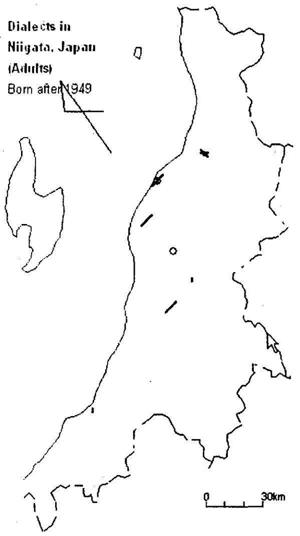
地図１９
明明後日
（高年層：
1949 以前生まれ）



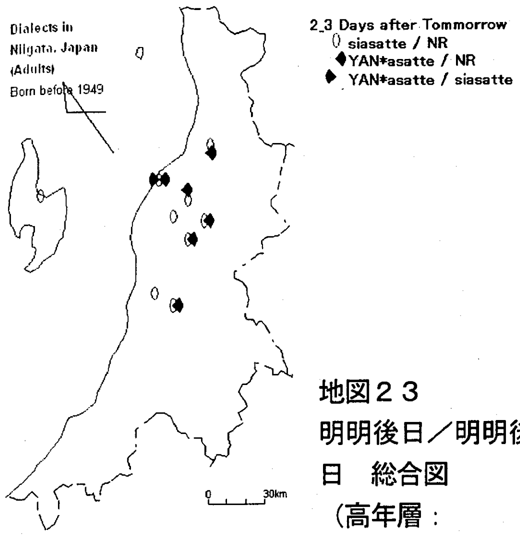
地図２０
明明明後日
（高年層：
1949 以前生まれ）



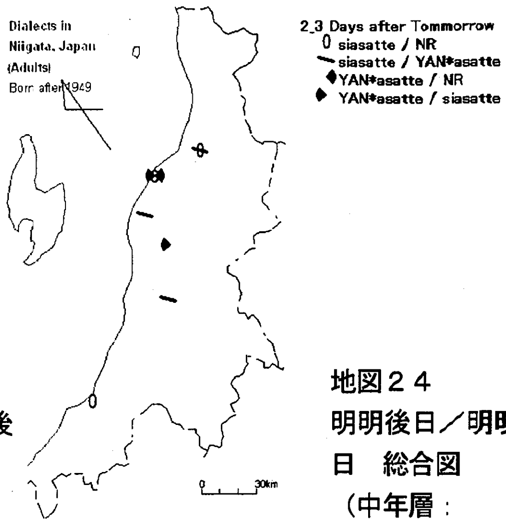
地図２１
明明後日
（中年層：
1949 以後生まれ）



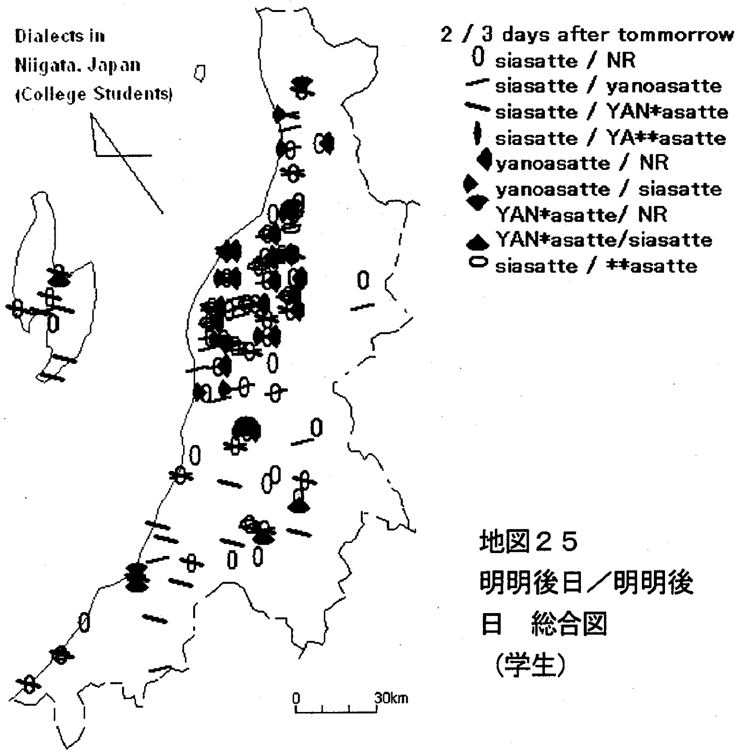
地図２２
明明明後日
（中年層：
1949 以後生まれ）



地図２３
明明後日／明明後日　総合図
（高年層：1949 以前生まれ）



地図２４
明明後日／明明後日　総合図
（中年層：1949 以後生まれ）



地図２５
明明後日／明明後日　総合図
（学生）